

## 指導行政のポイント

### 注目される“大臣記者会見”

菱村 幸彦

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。今回は新春号なので閑話をお許しいたくださいませ。

#### 政策の方向を知る重要な情報源

新政権の下では、各省の政策は政務3役が中心になって決定されることもあって、大臣や副大臣の記者会見が注目されている。

自民党政権の下でも、大臣の記者会見は、毎週2回、閣議の後に行われるのが慣例であった。しかし、当時は、政策に関する記者会見は、主として事務次官のほか、担当局長や担当課長が行っており、大臣の記者会見では、もっぱら政局がらみの話題やその時々行政上のトピックスについて大臣の感想や意見を聞くケースが多く、大臣会見で政策の課題や展望について語ることは少なかった。

ところが、新政権下では政策決定は、事務次官や局長などの官僚ではなく、政務3役が中心となっていくこととなった。文科省の政務3役会議は、大臣、副大臣(2人)、政務官(2人)で行っており、この会議には、秘書官以外の官僚は同席していないという。加えて、政策の策定に関して、事務次官をはじめ担当局長や担当課長による記者会見は、原則として禁止となった。

このため、例えば、高校無償化はどのように行うのか、全国学力調査はどうするのか、教員免許制度の見直しはどうするのか、等々の新しい政策については、官僚サイドの情報は入手しにくく、大臣や副大臣の記者会見が重要な情報源となっている。新政権の発足当初は、担当局長や担当課長も大臣や副大臣の記者会見によって政策の方向を知ることが少なくなかったようだ。

そんなわけで、私も、政権交代後は大臣と副大臣の記者会見を毎週見ている。ここで「見ている」と

書いたのは、記者会見の様子が、そのつど動画で配信されているからである。当初は、記者会見のテープを事務局が起こして文字で配信していたが(このため1~2週間遅れた)、最近は、YouTubeの動画で配信しているので、会見の翌日にはその詳細を見ることが出来る。

#### 「文科省メールサービス」で配信

動画は、会見の様子が生で映るので臨場感がある。答をぼかしたり、言いよどんだりする場合も発言者の表情や口調から、微妙なニュアンスが読み取れておもしろい。例えば、昨年12月25日の大臣会見で、新たに公表した高校指導要領「地理歴史編解説書」の領土問題に関する記述について、記者たちが「昨年の中学校の解説書では『竹島』に言及していたのに、今回それを外したのはなぜか」と追及する場面など興味深いものがあった。

記者会見は、川端大臣の会見もさることながら、鈴木副大臣の会見も見逃せない。鈴木副大臣は、旧通産省の元官僚で、慶応大学の准教授として教鞭を取ったこともあり、教育問題に詳しい。新政権の教育政策の動向に関心のある方は、川端大臣と鈴木副大臣の記者会見の動画をご覧になることをお勧めしたい。

記者会見の動画をみるには、文科省ホームページ右上にある「お知らせ」欄の「大臣記者会見等」をクリックすればアクセスできる。が、それよりも、文科省の「新着情報メール配信サービス」(<http://www.mext.go.jp/magazine/index.htm>)に申し込むと、原則として、毎日、文科省の「新着情報メール」が送られてくる。そのメールで記者会見の動画も配信されるので便利である。

(ひしむら・ゆきひこ = (財)学習リサーチ情報研究センター理事長)

本紙は、<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●1月29日発売! ただいま予約受付中! 教育法規の改正、文教施策の展開に対応して増補改訂!

## 『増補改訂 図解・表解教育法規』

坂田仰 / 河内祥子 / 黒川雅子 [共著]  
B5判 / 256頁 / 定価 3,150円